記者発表資料

平成２６年　３月１４日
東 北 地 方 整 備 局

入札監視委員会第二部会第４回定例会議（３月５日）の審議概要について

～抽出案件６件を審議、意見の具申・勧告はなし～

平成２５年度東北地方整備局入札監視委員会第二部会第４回定例会議が、３月５日（水）、東北地方整備局で開催されましたので、その審議概要（別紙）についてお知らせします。

議事では、委員により抽出された案件６件の審議が行われ、委員からの意見の具申・勧告事項はありませんでした。

〈発表記者会：宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会〉

問 い 合 わ せ 先		
国土交通省　東北地方整備局 仙台市青葉区花京院一丁目１番２０号		TEL (022)716-0013（ダイヤルイン）
	契 約 管 理 官	佐藤（さとう）　豊（ゆたか）（内線６２２１）
	経理調達課課長補佐	佐藤（さとう）　浩正（ひろまさ）（内線６５５４）

東北地方整備局　入札監視委員会（第二部会）第４回定例会議審議概要

開催日及び場所	平成２６年３月５日（水）　東北地方整備局会議室		
委員	部会長　貝山　道博　（埼玉大学　名誉教授） 部会長代理　齊藤　幸治　（弁護士） 委　員　高橋　敏彦　（東北工業大学　工学部教授）		
審議対象期間	平成２５年１０月　１日～平成２５年１２月３１日		
総審議案件	６件	〈備考〉 （１）工事、建設コンサルタント業務等、役務の提供等及び物品の製造等の発注状況 （２）指名停止措置の運用状況 （３）談合情報等の対応状況及び談合疑義事実の該当事案 （４）再度入札における一位不動状況 （５）低入札価格調査制度調査対象工事の発生状況について報告を行った。	
工事 一般競争（WTO対象）	１件		
工事 一般競争（WTO対象外）	２件		
工事 工事希望型競争	０件		
工事 工事希望型以外の指名競争入札	０件		
工事 随意契約	０件		
建設コンサルタント業務等	２件		
役務の提供等及び物品の製造等	１件		
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問	回　答	
	別紙のとおり	別紙のとおり	
委員会による意見の具申又は勧告の内容	本日の審議結果について、意見の具申又は勧告事項はありません。		

東北地方整備局　入札監視委員会（第二部会）第４回定例会議審議概要

審　議　案　件　　工　事　概　要　書

	入札・契約方式	工　事　名	工事種別	契約金額 （単位：千円）	競争参加資格を確認した者の数	入札参加者数
1	一般競争 （ＷＴＯ対象）	釜石港湾口地区湾口防波堤（災害復旧）本体工事	港湾土木工事	1,868,400	4者	4者
2	一般競争 （ＷＴＯ対象外）	大船渡港湾口地区防波堤（災害復旧）（開口部）本体工事（その3）	港湾土木工事	358,050	1者	1者
3	一般競争 （ＷＴＯ対象外）	秋田港飯島地区泊地（-11m）外浚渫工事	港湾等しゅんせつ工事	126,000	2者	1者

審議案件　建設コンサルタント業務等概要書

	入札・契約方式	業　務　名	業務区分	契約金額 （単位：千円）	手続きへの参加資格及び業務実施上の条件を満たす参加表明書の提出者数	入札参加者数
4	簡易公募型競争	小名浜港外国有港湾施設維持管理計画策定業務	建設コンサルタント等	33,705	4者	4者

	入札・契約方式	業　務　名	業務区分	契約金額 （単位：千円）	手続きへの参加資格及び業務実施上の条件を満たす参加表明書の提出者数	技術提案書の提出業者数
5	簡易公募型プロポーザル	仙台塩釜港地形変化予測検討業務	建設コンサルタント等	9,555	1者	1者

審議案件　役務の提供等及び物品の製造等概要書

	入札・契約方式	業　務　名	業務分類	契約金額 （単位：千円）	競争参加資格を確認した者の数	入札参加者数
6	一般競争	東北沿岸域環境情報センター（Webサイト）更新	役務の提供等	9,975	1者	1者

別　　紙

NO. 1

	意見・質問	回　　答
1-1	定例報告 「対象期間における発注案件について」 ・ 特になし	
1-2	定例報告 「指名停止措置の運用状況」 ・今回のように瑕疵が発見された場合、瑕疵が原因で発生する費用の負担は、誰が行うのか。 ・単純なミスにも見えるが、どういった内容なのか。	 ・瑕疵を発生させた業者が負担することとなります。 ・単純な転記ミス等によるものと思われます。
1-3	定例報告 「談合情報等の対応状況及び談合疑義事実の該当事案」 ・特になし	
1-4	定例報告 「工事種別ごとの再度入札における一位不動状況」 ・特になし	
1-5	定例報告 「工事種別ごとの低入札価格調査制度調査対象工事の発生状況」 ・特になし	

	意見・質問	回　　答
2-1	審議 「釜石港湾口地区湾口防波堤(災害復旧)本体工事	
	・大きな工事であるが、技術力が特段必要ないと思われるのに４者しか参加していない理由は何か。	・４者参加となっていますが、ＪＶ４者の参加であり、構成員数にすると１１者が参加しており、参加者が少ないとは考えておりません。
	・この規模の工事でＪＶを組む必要があるのか。	・一定の金額以上はＪＶを組むことができるという規定になっておりますが、発注者側で強制しているものではありません。ＪＶを組むかどうかは任意であり、結果としてこのようになったものと理解してます。
	・加算点について、無効となった３者が低い理由は何か。	・無効となった３者は追加資料を提出しなかったため、施工体制評価点が加算されなかったことによるものです。
	・追加資料を提出すれば、落札者と同等の点数となったのか。	・施工体制評価点は追加資料の内容によって判断されますので、必ずしも満点となるものではありません。
	・調査基準価格スレスレで３者が入札している。予定価格が決まれば、調査基準価格が決まるのか。調査基準価格の設定がどうだったのかという印象がある。	・調査基準価格は積算の区分毎に定率を掛けて算出するものです。工事によって異なりますが概ね予定価格の８８％程度となっています。積算の基準が公表されている中で、受注意欲が強いと思われる３者がギリギリで入札してきましたが、結果として調査基準価格を下回ったものと考えています。
	・全てＪＶで参加しているが、それはなぜか。	・リスク分散の目的があるのではないかと思われます。
	・受注意欲が高いのに追加資料を出さないのはなぜか。	・低入札価格調査制度は公正な競争を阻害される恐れがあるということで始められたものであり、提出資料は種類が多く、短期間で整理する必要があることから、業者は資料を出したがらないのではないかと思います。
	・生コンの供給はうまくいっているのか。	・この工事については、釜石港内に港湾工事専用のプラントが設置されており、スムーズに供給できています。
	・運営主体は誰か。	・地元の生コン業者の協同体が運営しております。
	・ケーソン製作を台船上と３回の海上打継で施工しているが、すべて陸上で製作するのと比較し、金額的にどれだけ違うか。	・大きな差はないと思われます。ただ、このケーソンは非常に大きく、日本最大級の起重機船２船を同時使用しなければ陸上から移動させることはできないこともあり、海上で製作しています。

	意見・質問	回　　答
2-2	審議 「大船渡港湾口地区防波堤(災害復旧)(開口部)本体工事(その３)」	
	・１者応札で落札率が高いということは、技術的に難しい工事なのか。	・陸上で行う工事であり、特段むずかしい工事ということではありません。 本入札は電子入札で行っており、業者は入札に何者参加しているか分かりませんので、１者参加だから高くなったということではありません。あくまでも、積算をした上で、利益が上がる額で入札した結果だと思われます。
	・応札者が１者の理由は何か。	・資料をダウンロードした業者に入札後にヒアリングをしたところ、資材の確保が難しい、配置予定技術者がいないとの回答がありました。 今年度後半から資材調達が厳しい状況にあり、特に岩手県が厳しくなっています。夏に岩手県で大雨災害があったことが影響していることも考えられます。
	・再公告ということだが、１回目の入札状況はどのような状況か。	・１者応札で、再入札の際に入札を辞退し、結果として入札不調となっています。
	・再公告の入札は当初の入札のどれぐらい後か。	・約１ヶ月後です。
	・不調となった１回目の予定価格は公表されているのか。	・公表していません。落札になったもののみを公表しています。
2-3	審議 「秋田港飯島地区泊地(－１１ｍ)外浚渫工事」	
	・参加可能者が１８者あったのに２者のみの参加となった理由は何か。	・作業船を確保する必要がありますが、震災対応のために作業船が不足していたことも原因ではないかと考えております。
	・航路を部分的に掘っている理由は何か。どれくらいの頻度で浚渫しているのか。	・船が通過する箇所でありながら、規定水深が確保されていない箇所があったことから、このような形になっています。浚渫は年１回程度です。
	・辞退者がいるがどのタイミングでの辞退なのか。	・資格決定後、入札前に辞退を申し入れてきました。
	・浚渫工事はルーティン業務だと思われるが、受注側の準備はできていないのか。	・震災の影響で浚渫工事に使用する作業船が少ないことに加え、発注時期が地元自治体と重複するといったことなども影響している可能性はあると考えられます。

	意見・質問	回　　答
2-4	審議 「小名浜港外国有港湾施設維持管理計画策定業務」	
	・同種業務と類似業務の区別はどうなっているのか。	・記載してある二つの業務のうち、同種は両方とも経験がある者、類似はどちらかの経験がある者となっています。
	・応札者４者のうち１者だけ入札額が高いのはなぜか。	・被災地では人件費が高くなる傾向があります。入札額が高い業者は他者よりも人件費を高く見ていた可能性はあると思われます。
	・海上部での調査もあるが、この履行期間で大丈夫か。	・調査対象４５施設のうち、海上部は２施設であることから、海上部調査の期間が、履行期間に影響を与えるものではありません。
	・業務成績は業者に通知しているのか。	・業務完了の都度、通知しています。
2-5	審議 「仙台塩釜港地形変化予測検討業務」	
	・参加表明提出者が１者のみとなったのはなぜか。	・資料をダウンロードした業者に入札後にヒアリングをしたところ、配置できる技術者がいないという理由で参加してこない業者が多数おりました。
	・工期が短いのではないか。	・急遽発生した業務であるため厳しい工期となっていますが、現在、工期内で終える程度の進捗状況となっています。
2-6	審議 「東北沿岸域環境情報センター（Webサイト）更新」	
	・１回目の入札に比較し２回目は１００万円と大きく下げているが、業者には１者入札ということは知らされていないのか。	・電子入札ですので、応札者は自分以外に何者いるかは分かりません。
	・入札方式を指名競争方式かプロポーザル方式にするには、どのような考え方で決めているのか。	・業務の技術的難易度によって決めています。
	・このデータベースは一般の方も利用は可能か。	・はい。